

The 2 Chome Times 2025年12月号

NO1のプレミアムストリートをめざして



2025年・12月・25日

NO 331号

発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591) 2丁目タイムス12月号

編集：企画・商業振興部、編集長：井上晶雄 <https://www.tergai2.com> E-mail:tergai2@nifty.com

フェイスブックでも発信しています <https://www.facebook.com/tergai2/>
 2丁目で KOBE Free Wi-Fi ご利用いただけます

★今年度最後の美化活動について

今年度最後となる美化活動が 12月 16日に行われました。組合員の皆様のお陰で日頃、2丁目の通りは大変綺麗です。皆様には感謝の念しかありません。他の街や、駅などへの通路を観ていると、私達の街とは大違いのには直ぐに気が付きます。特に目立つのがガムのポイ捨てですが、見た目にも汚いし、どうしてポイ捨てが出来るのかと残念な気持ちになります。2丁目はアートストリートですので、作品の横にガムや煙草の吸殻が落ちていたり、車のオイルなどが点在するようではとても作品を鑑賞する気が起ります。そして皆さんで掃除を毎月している姿を通行されている方々にご覧になって頂くことも街の意気込みやポリシーをお示しする事になり、大変重要な要素の一つだと信じています。来年1月20日も新年最初の美化活動がありますが、どうぞ皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



★但馬“豊岡” 豊岡建築復興群 豊岡の歴史・文化・偉人を学ぶ

12月 12日（金）、朝の8時に三宮を出発し、豊岡・城崎への研修旅行がありました。豊岡には明治維新直後の1871年から1876年迄、豊岡県が成立していた歴史があります。そんな豊岡・城崎では今から100年前の1925年に北但大震災があり、その火災により豊岡では町の市街地の約7割が焼失し、城崎では実際に272名（人口比で8.0%）という多数の死者が生じました。犠牲者の大半は、炊事中に家屋の倒壊に巻き込まれ脱出できないまま焼死した女性たちであり、「北但大震災の最大の犠牲者は城崎の女性である」とまで言われています。地震後、豊岡や城崎では、道路幅拡大や耐火建築の促進など、地震・火事に強い町を目指して震災復興再開発事業が成し遂げられました。例えば「うろこの家」と呼ばれる緑青の味わい深い建物がありますが、この建物は、1920年代頃の建物で防火対策として外壁にうろこ状に銅板が張られています。それまでの建物は木造が大部分を占めていたこともあり、防火建築が最重要の課題でした。北但大震災は、不幸な出来事ではありましたが、教訓とともに魅力的な復興建築の町並みを現在に伝えています。「地域おこし協力隊」のハミルトン 墓さんから特に街歩きをしながら、そういった建築物の説明を受けました。豊岡の市街地周辺には北但大震災の被災後に建てられた昭和初期の建物が数多く残っており豊岡復興建築群として保存活用されています。震災後に起きた火災を教訓に、防火建築の促進を目的にした補助制度が創設された結果、このような洋風の建物が建てられたのだそうです。



お昼休憩を挟んで、城崎温泉の方に向かい、城崎町に生まれ、後に関西電力初代社長になった太田垣士郎氏の資料館を訪れました。太田垣氏は1951年（昭和26年）に電力不足が深刻だった時代に黒部ダム建設の指揮を執りましたが、その総工費は513億円、約1万人の労働力を投入し、171名の尊い犠牲を伴い、その完成に至りました。太田垣氏は黒部ダム完成の翌年、1964年に逝去されましたが、亡くなるまでずっと171名の御靈に想いを馳せておられたそうです。

ちなみに太田垣氏の残した名言の一つに「経営者が10割の自信を持って取り掛かる事業、そんなものは仕事の内に入らない。7割成功の見通しがあつたら、勇断をもって実行する。それでなければ本当の事

業はやれるもんじやない」があり、この信念があったればこそ、黒部ダムが出来たに違いありません。

もう一人の偉人は豊岡市出石町に生まれた斎藤隆夫氏です。1912年（大正元年）に衆議院議員に初当選した政治家ですが、1936年（昭和11年）の2・26事件後の帝国議会で「肅軍演説」を行い、軍部の政治介入を厳しく批判しました。さらに1940年（昭和15年）には日中戦争における政府の対応を糾弾する「反軍演説」を行い、衆議院を除名されました。あの戦争へと突き進んでいた時代に、想像できない程の圧力の中、軍部の指導者と当時の近衛内閣を批判したのです。その為、国民からの信頼は絶大で、



太田垣士郎氏



斎藤隆夫氏

1942年（昭和17年）の翼賛選挙では非推薦ながらトップ当選を果たし、議員に復帰しました。その斎藤隆夫記念館が豊岡にあり訪ねました。斎藤隆夫氏の兄のひ孫にあたる斎藤義規さんから説明を受けました。常に自分の信念を貫く政治家だった斎藤隆夫氏は「ただいたずらに聖戦の美名に隠れて国民的犠牲をおさりにし、国家百年の大計を誤るようなことがありましたならば、現在の政治家は死してもその罪を滅ぼす事は出来ない」と演説したそうです。一部の演説の内容は議事録から削除されましたが、前石破総理が復活させるように指示したとの報道もあります。それぐらいの価値がこの「反軍演説」にはあります。今後、今の複雑な世界情勢がさらにその危機感を強めるかもしれません。そうなった時に政治家は勿論のこと、国民一人一人が勇気を持って声を上げなければならないのだと感じながら、すっかり暗くなつた中を神戸に帰りました。

★ゆすはら未来大使 就任式

10月号のタイムズでもご紹介致しましたが、久利理事長が高知県梼原町の観光大使「ゆすはら未来大使」に就任し、その就任式が12月1日にセンタープラザ西館の応接室で行われました。ゆすはら未来大使には建築家の隈研吾氏やマラソンで有名な有森裕子さんもなられています。梼原町は高知県西部の山あいにある小さな町で、人口は3千人に届かず、街面積の91%を森林が占め、「雲の上の町」として知られています。この町の歴史の深さと、自然と調和をなすモダンな建物などが、訪れた人々の興味を多面的に拡げていきます。梼原町と御縁が出来た久利理事長が吉田尚人梼原町長から直に任命状を受け取られました。

この任命状は地元産のヒノキで作られた特別製です。人口の多さや産業の規模だけで街の価値を決めるのではなく、久利理事長の「歴史的、文化的な側面」に目を向ける認識力が「未来大使」に繋がったのは間違ひありません。皆様もお時間がございましたら高知県梼原町へ足を運んでみて下さい。



★編集後記

歌手の浜崎あゆみさんが中国上海でのコンサートを「不可抗力によるもの」との理由で、無観客でのコンサートを実施し、マカオでの来年1月予定のコンサートも中止になりました。上海でのコンサート中止に際しては、彼女はどこに抗議するでもなく、フェイスブックに英語で「1万4000の空席を前にしていましたが、世界のツアーオーディエンス（TA）の深い愛を感じることができ、私にとって最も忘がたい公演の一つとなりました。このステージを生み出してくれた200人の中国と日本のスタッフ、バンドメンバー、ダンサーの皆さんに心から感謝します」とつづり、観客がいない中でパフォーマンスをする自身の写真を投稿したそうです。誰でもどこかに不満をぶつけたくなる状況で、逆に自身の為に努力し、労力を割いて頂いた方々への感謝の気持ちを述べる、これ程勇気と胆力を必要とする行動はないのではないでしょうか。センター街2丁目で懸命に営業努力をされていらっしゃる皆様も、ご商売がスムースにいかない時もその気持ちをお店に来て下さるお客様への感謝の気持ちに変えるポジティブな考え方があれば、あるいは明日の営業成績に反映されるかもしれません。営業トークではなく心のこもった接客、これこそが「黄金のみち」です。私自身も来年こそは人間力をもっと磨こうと考えさせられました。今年1年間、ご愛読有難うございました。来年も宜しくお願ひ致します。2026年が皆様にとって素晴らしい年となる事を願っております。

